



NPO 法人流山市国際交流協会 NAGAREYAMA INTERNATIONAL FRIENDSHIP ASSOCIATION NIFANEWS

発行: NPO 法人 流山市国際交流協会
〒270-0111 流山市江戸川台東 1-4 3F
国際理解サポートセンター内
☎ : 04-7128-6007 (月・水・金)
Email:nifa-support@bz04.plala.or.jp
http:nifa-home.sakura.ne.jp/



大切なのは相手を思い、安心を届けること ～災害時の外国の人とのコミュニケーション「やさしい日本語」講座 (2024 年 11 月 23 日)～



柴垣講師の講義

流山市には現在、21 万 3 千人 (注1) を超える人が暮らしており、うち 4 千人余り (注2) が外国出身者です。私たちのコミュニティには、多様な国・地域出身の人達が共に暮らすようになり、互いの意思疎通が大切になってきています。「やさしい日本語」はその一つの方法。この関心を広めようと、市も数年前に啓発ポスターの掲示を始めました。そして昨年からは講座を始め、今年は「災害時における外国の人とのコミュニケーション」をテーマに、実践的な課題に取り組みました。NIFA は市からこの事業を委託され、誰もが安心、安全に暮らせる社会の推進に、一端を担っています。

この日の講座は、講義とグループワークの 2 本立て。講師は柴垣禎 (しばがきただし) さん、富山県職員の一方、多文化共生マネージャーとして、地震や水害などの被災地で支援活動に携わったり、各地で講演、講習会をされています。

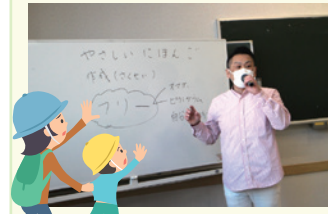
日本で災害に遭遇した外国の人にとり、何が起きたのか、どうしたらいいのか、どのように元の生活に戻れるのか等わからないことが多い。生活再建にも長期間を要し、その間切れ目のない、その局面に合った支援が必要。支援の基本は、相手が何を必要としているかを知ること、「安心」を届けること。災害情報を伝える時には情報の取捨選択と言葉の分かりやすさが大切。言葉を換えたり、イラスト・ピクトグラム、携帯電話・電子辞書・指さしボードなどを使用する。わかりやすい日本語にするには、要らない情報をカットし、意味が伝わるよう足す (「引いて足す」)、主語と述語を近くに置き、1 文に複数の情報を入れない (「文章は短くはっきりと!」)。講師からはこのような話をいただきました。

後半は、政府発刊の「避難行動判定フロー」を使ってグループワーク。「避難行動判定フロー」とは、警戒レベル (1 から 5 まで) 別に、取るべき避難行動と、避難指示が関連づけて示されているリーフレットのこと。このリーフレットを「やさしい日本語」に変換したり、改善点を見つけたりのワーク。外国の方には流山市のハザードマップの説明を行い、何かの時の避難に役立ててもらおうようになりました。グループ発表では、「判定フロー」に書かれている「避難行動等」、「避難情報等」を、「やさしい日本語」に直そうと苦労した様子の報告や、思い切って言い換えた内容の提案あり、危険度を表す色も、国・地域により違いがあると、外国の方から指摘もあるなど、興味深いものでした。

これからも継続した取り組みで、「やさしい日本語」に関心を持つ人が増えることを期待したいものです。

(注1) 2024 年 12 月 1 日現在 (「広報ながれやま」から)

(注2) 2024 年 11 月 1 日現在 (流山市の HP から)



世界の料理教室
ラトビア編

とおいバルト海の国が
「おいしい」でつながりました

12月15日 南流山センター



上村エレナさん

この日は、南流山センターの調理室がラトビア色になりました。講師はラトビア出身の上村エレナさん。流山市が主催し、NIFA が委託され、ホームステイ・イベント事業部が運営を担いました。23 名の方が参加しました。

メニュー
サワークリームサラダ
もち麦のスープ
豚肉のピカタ
ニンジンとグリーンピースの生クリーム煮込み
～蕎麦の実を添えて～



参加者とやりとりしながら

まずは、講師のデモンストレーションから。エレナさんは「日本の野菜はおいしいですね」と話しながらニンジンを切ったり、「ラトビアでは乳製品をととてもよく使います」の言葉とともに生クリームと小麦粉を交ぜたりします。参加者は一つ



調理実習の様子

一つの話に引き込まれながら、講師の手元を見つめました。肉たたきを使って肉の表面がととても大きくなったときには、皆さんから感嘆の声が上がりました。

次は、いよいよ班に分かれての実習です。各調理台では、エレナさんからのアドバイスを受けながら、和気あいあいと調理が進められました。本来ラトビア料理は味が濃いめだそうです。今回、塩加減は各自の好みでとの指示に、それぞれおいしいラトビア料理が完成しました。



楽しく歓談しながら試食の後には、ラトビア紹介の時間。地図や写真を示して、バルト海東岸の遠い国であること、冬は寒く、夏は夜10時ごろまで明るいこと、ピーツを使ったピンク色のスープがあることなど興味深い話が、クイズを交えながら、数々披露されました。冬が長いので手仕事が好きで、エレナさんも子どものころから編み物に親しんだとのこと。知人が作成したという手芸作品が回されると、その温かみに皆さんから笑みがこぼれました。

参加者の「ラトビアの人は日本を知っていますか」との質問には、「日本のアニメは人気。首都リガは神戸と姉妹都市で、日本語学校もあります」との答えが。

料理教室を終えて、「おいしかった」「初対面の方たちと楽しく調理できた」「託児があり、参加できた」等の声が聞かれました。最年少13歳の参加者からは「ラトビアという遠い国の人と交流できてよかった」との感想が得られました。



ラトビアってどんな国？



編み物の手芸作品



楽しい試食 お味は？

ひと ありよし かつこ
NIFAの人 有吉 勝子さん

English ホームステイ・イベント事業部

えいご おんがくかつどう ひる
英語も音楽活動も NIFA から広がりました



Q. NIFA は1991年に設立されましたが、その頃に入会されましたね？

A. 「広報ながれやま」に「流山市国際交流協会設立総会」のお知らせが載っているのを見て参加し、その後入会しました。

Q. 国際交流に関心をお持ちでしたか？

A. さかのぼると小学3年の時です。仲良くしていた女の子が放課後、特別クラスで何やら知らない文字を勉強しているのを見てうらやましく思っていました。しばらくしてそれがハングルであり、彼女が韓国人であることを知りました。外国や外国語に目が開かれた瞬間でした。中学に入ると外国語である英語を学べるのがうれしかったです。3年生の時には茨城県の「英語暗唱大会」で優勝したことも、その後の英語への関心を持ち続ける動機になっています。

Q. NIFA では設立2年目に語学講座を始め、第1号の英語講師をお務めになりましたね？

A. はい、大学では英文科を専攻しましたが、卒業、就職、結婚、子育ての後、すっかり忘れていた英語の勉強を始め、各種の英語検定試験に挑戦し始めた頃、NIFA から講師の依頼をいただき、何かお役に立てればという気持ちで英会話講座をお受けしました。それ以来英語の道が開かれました。NIFAのおかげです。

Q. ホームステイ委員会にも参加されていましたね？

A. 外国の人との触れ合いがあり、語学力をいかせることから、ホームステイの活動にも参加しました。大野榮一さんの後、8年間委員長を務めました。

Q. 活動はいかがでしたか？

A. 当時はアメリカやオーストラリアから定期的に訪れる学生の受け入れが中心でした。ホストファミリーの募集や学生とのマッチング、市内の幼稚園、小中学校訪問の企画、市との調整、歓迎パーティ、お別れ会などの準備で大変忙しい日々でしたが、メンバーの皆さんと一緒にとても楽しい活動でした。外国人の学生さんたちもホストファミリーや児童生徒との交流ができ、流山市の滞在を随分感謝されました。私たちがアメリカやオーストラリアにホームステイした時にも大歓迎していただきました。ま

た麗澤大学からも一日または一泊のホームビジットを受け入れ、ホストファミリー、学生双方からとても喜ばれました。ホームステイの交流で、相手国の文化を身をもって知ることができ、より理解が深まりますし、心のつながりも生まれます。この人同士の関係が、世界がつながるベースになればいいですね。今はNIFAから少し離れていますが、当時学生を受け入れるのにいろいろ苦勞を分かち合ったり、課題を相談し合う中から生まれた会員同士の絆は強く、今でも交流は楽しく続いています。

Q. フォークシンガーとしてもご活躍ですね？

A. 大学生の頃はフォークソングの全盛時代、サークルに所属してバンドやソロで歌い始めました。ギターはその時覚えました。在学中はかなり歌っていましたが、卒業とともにすっかりやめました。NIFAに入ってから歓迎パーティなどで歌い始め、バンドでも活動していました。その後50代半ばで本格的に歌手活動を始めました。オリジナル曲も多くあり、CDも4枚リリースしました。

Q. どのような演奏活動をなさっていますか？

A. 年2回のワンマンライブを中心に、東部公民館での歌声喫茶・ライブハウス・自治会・老人会・お祭り・各種イベントなどで歌わせていただいています。元はフォークシンガーですが、アメリカンポップス（英語で）や日本のポップス、昭和歌謡などレパートリーは幅広いです。長い音楽活動を通じ、多くの方と知り合いになりました。中でも今は吉田拓郎さんのバックでキーボードを弾いていた柳田ヒロさんにプロデュースとサポートをしていただいています。ベルボトムズ（庄野真代・叶高・他）のライブに出演させていただいたり、森山良子さんに「頑張っ

ね！」とハグしていただいたのはうれしい思い出です。松戸市小金原を走っている無料バス、グリスロから毎日流れている「グリスロの歌」を歌っているのは私です。

Q. 他に何かおやりになっていることは？

A. ポールウォーキングです。コロナの最中に、教えていただいている日本ポールウォーキング協会プロコーチの方から、引きこもっている高齢者が、家の中で体操ができるような曲を依頼され、「ポールウォーキングの歌」を作詞作曲しました。一昨年は台湾ポールウォーキング協会が設立され、昨年現地で歌う機会を得ました。帰国してみると、私の曲がすでに中国語に翻訳されて歌われていました。驚いたりうれしかったりでした。現地の方と一緒にポールウォーキングをしたり、ハイビスカスの一種、洛神花を摘んでジャムにしたりと大歓迎を受けました。まさに「これぞ国際交流」を実感しました。

◆ 楽しいお話をありがとうございました。(1月9日西山勝)





タマン・ラジャンさん エベレストを背に



これぞ ヒマラヤの男！

タマン・ラジャンさん しゅっしん にほんごこうざじぎょうぶ ネパール出身(日本語講座事業部)

私はタマン・ラジャンです。ネパールの東部、標高2,000メートルほどのところで生まれました。ネパールには 8,000 メートル以上の山がたくさんあります。観光地もたくさんあります。ネパールはエベレストでも有名です。

山が好きなので、ガイドになろうと決めました。私はこのエリアでトレッキングガイドとして 14年の経験があります。今までトレッキングした最高

地点は 6,000 メートルまでです。いろいろな国の人たちとも(登山の)仕事をしてきました。それは素晴らしい経験です！そして多くの面白い瞬間が記憶に残っています。多くの山のベースキャンプまでトレッキングしました。最も低いベースキャンプは 3,000 メートルくらいです、

また、私はアンナプルナ・ヒマールのベースキャンプで初めて人生の伴侶となる人に出会いました。彼女は日本人です。ヒマラヤでの出会いを結婚につなげたいと決めたのはこのときでしたが、簡単ではありませんでした。長い話し合いの末、私たちは思いを遂げることができました。そして今、私は日本で暮らしています。娘も 2歳になりました。

娘も日本の山をいくつか経験しています。筑波山をトレッキングしたことがあります。今度、近いうちに近くの山にトレッキングに行こうと思っています。日本に来て 3 年になります。日本の山にも行きたいのですが、今は娘が小さく、遠くの山には行けません。数年後には、日本で一番高い山にトレッキングに行くつもりです。



夕映えのアンナプルナ

アンナプルナのベースキャンプにて奥様



家族で筑波山登り

今は母国の食事よりも日本食が好きです。母国ネパールで毎日食べるのは、ダル(注)、米、野菜の漬物です。ネパールには海も列車も船もありません。だから海産物を食べる習慣がないのです。

ネパールにはたくさんの見どころがあります。ネパールのことを知りたいときには、ヒマラヤ人である私を思い出してください

これまで NIFA の支援で、私は少し日本語を話せるようになりました。生涯忘れることのない恩師、遠藤さんに感謝します。彼女のおかげで日本語を学ぶことができました。私にネパールを紹介する



音聞迫るエベレスト

機会を与えてくれた NIFA に感謝します。

(注) Dal: 主にインド料理で、豆類やレンズ豆を使った料理を指します。これらの豆は煮込むことで柔らかくなり、形が崩れて流動的な状態になることから、その名が付けられたようです。今日では、dal は多様な料理として世界中で親しまれています。



カトマンズのスワヤンブナート寺院

My Memorable Home

This is the man of Himalayan !

Mr. Tamang Rajan Nepal



Mr.Rajan

My name is Tamang Rajan. I was born in the eastern part of Nepal that is about 2000 meters high above sea level. In Nepal, there are many mountains above 8000 meters. There are many tourist destinations. Nepal is also famous for Mt. Everest.

I love mountains so I decided to become a guide. I have 14 years experiences as a trekking guide in this trekking area. My highest point that I have trekked was up to 6000 meters of passes. I have worked with people from many countries. That's wonderful experiences! And many funny moments are remembered. I have trekked up to the base camp of many mountains. The lowest base camp is around 3000 meters,

I also met my life partner for the first time at the base camp of Annapurna Himal. She is a Japanese citizen. It was during this time that we decided to tie our meeting in the Himalayas to marriage, but it was not easy. After a long discussion we were able to achieve success in our decisions. And now I am living in Japan. My daughter also turned 2 years old.

My daughter has also experienced some mountains in Japan. I have trekked Mt. Tsukuba. Again, I am thinking of trekking to a nearby mountain soon. It has been 3 years since I came to Japan. I also want to visit the mountains of Japan, but now I can't travel to distant mountains because my daughter is small. In a few years I will be trekking to the highest mountain in Japan.

I now like Japanese food more than my country's. In my home country, Nepal, the food I eat every day is dal, rice, vegetable pickle. Nepal has no sea, train and no water ship. That is why there is no custom of eating sea food.

There are many tourist spots in Nepal. If you want to know something about Nepal, remember me as a Himalayan man

So far, with the help of NIFA I have been able to speak a little Japanese. I would like to express my gratitude to my teacher Endo-san who I will never forget in my life. She has helped me a lot learning my language. Thank you NIFA for giving me this opportunity to introduce my Nepal



岡本かつら(おかもとかつら)さん
ホームステイ・イベント事業部

- ◇出身
:千葉県
- ◇趣味:旅行・
スポーツ観戦
(特に野球)



ホームステイ委員会に入って約20年間経ちます。現在でも3人と交流があり、毎年クリスマスプレゼントを送っています。その1人がつい先日来日して、我が家に泊りました。15年ぶりで子供たちの成長に驚いていました。

宇佐見幸恵(うさみさちえ)さん
日本語講座事業部

- ◇出身
:茨城県
- ◇動物に
例えると:
コアラ



いろいろな国の人と交流したい思いから日本語教師をしています。日本語を教えるだけでなく、生徒さんの国の文化や言葉を知ることができ、とても楽しいです。これからもがんばります。

山室みどり(やまむろみどり)さん
外国語講座事業部

- ◇出身
:東京都
- ◇動物に例
えると:猫(寝
るのが大好
きなので)



英国に2年、米国に約30年住んでいましたが、2021年永久帰国して、流山市に住み始めました。日々、日本での生活は便利で安全で本当にありがたいなど実感しております。

前号 (S/N234 号、9月1日発行) 「数珠つなぎ」に一部欠けた箇所がありました。おわび申し上げます、以下のとおり訂正いたします。

○神保宗安さん: (誤) 「語学にが(が)あり」 ⇒ (正) 「語学に興味(きょうご)があり」

○酒井溪子さん: (誤) 「流山(りゅうさん)にんで」 ⇒ (正) 「流山(りゅうさん)に住(す)んで」

○落合あい子さん: 「世界中(せかいじゅう)のな(な)容姿(ようさ)」 ⇒ 「世界中(せかいじゅう)の様(さま)々な(な)容姿(ようさ)」 「いつまでも(いつまでも)にいたい(いた)いので」 ⇒ 「いつまでも元(もと)気に(き)にいたい(いた)いので」

パリだより

オリンピックの余韻の中で象徴の復活

～ 石川弓子さん ～

2024年の大イベントは何と言ってもオリンピック・パラリンピック大会の開催だった。7月末から1ヶ月の休止期間を入れて9月初めまでパリを中心に行われ、無事に幕を閉じた。その余韻はいくつかのところに残り、開会式での金属製の馬「ゼウス」が、パリ市庁舎に続きヴェルサイユ宮殿で1月中頃まで展示。またオリンピック五輪の輪のモニュメントが、バスチユ広場の一角に12月現在で飾られている。パリ市にとり大きなイベントであったゆえ、なんとゴミ収集車の宣伝にも。

次の大イベントは12月7日に行われたノートルダム大聖堂の再開記念式典だろう。5年前に大火災によって尖塔などが焼け落ち、世界各国からの経済的援助、フランスの専門職人の総力を集めてオリンピック年を目指し、修復したものだ。写真は、大聖堂正面に当てられた光による各国語の「Merci(メルシー)」。左下と左中には小さく日本語の「ありがとう」が投影されているのが見えるだろうか。

キリスト教国であるフランスの年末年始の行事はクリスマスが盛大で、街角、庭、建物内にクリスマスツリーやキリスト誕生の場面の飾りも。道路上にはイルミネーションが輝く。その代わりお正月は何もない。1日は祝日ではあるものの、2日から通常通りの生活。日本人にとってはちょっとそっけない感じがしないでもない。



バスチユ広場に飾られた五輪



パリ市ゴミ収集車の宣伝



ノートルダム大聖堂正面 (franceinfo の画面より)



サンタンヌ病院庭のクリスマス飾り

(注) パリに長年お住いの石川弓子さんには、2022年と今年度、現地の今の様子をレポートしていただきましたが、今回で終了となります。石川さんは、元は市内江戸川台にお住まいでしたが、昨年隠岐の島(島根県)に移住されました。長年のレポートにお礼申し上げ、新たな島暮らしをエンジョイされますよう、祈念いたします。



「恵方巻き」でみんな福を呼びました

～ We are friends 2月2日 初石公民館 ～

新年も一ヶ月が過ぎ、寒さもひとしお。春が待たれるこの時期に、「節分」がやってきます。今はもう、「鬼は一そと、福は一うち」と叫びながら、丼に入れた大豆をまく光景は見られなくなりましたね。でも春の前に邪気をはらい、福を招き入れる神事がさまざまに行われる様子が報じられます。近年は、この日に「恵方巻き」を食べる習慣がすっかり日本に定着したようです。

NIFAもこの日に「恵方巻き」を作り、食べ、みんなでおしゃべりを楽しむイベントを開きました。東アジア、東南アジア、北欧、中米、カリブ、アフリカなど、多様な国・地域出身の方が、調理台を囲み、恵方巻き作りを体験。すだれの上のにりを置き、ごはんを乗せ、春の七草を模した具材を真ん中に入れ、「ぎゅっ」と巻くとでき上がりです。のり巻きは、おにぎりと同じく日本の行事食、楽しい食卓を演出してくれるごちそうです。みんな福

を呼ぼうと、今年の恵方である西南西を向いて、この太巻き寿司を切らずに、途中声を発せず、いつとき静かにほおぼっていました。食後は韓国のジャンケンを楽しんだり、いくつも談笑の輪をつくっていました。

明日は立春、参加した約30人の皆さん、福を招き入れた様子です。

この会の準備、下ごしらえはホームステイ・イベント事業部の皆さんが担当していただきました。



◇英会話を気軽に楽しむサロン

～外国語講座事業部～

カフェで外国の方とお茶を飲みながら英会話を楽しむ、そんな雰囲気「英会話サロン」を木曜日の午後、生涯学習センターの 3 階で開いています。

講師はリン・アリッサさん。現在米国籍をお持ちで日本に留学中です。昨年 12 月から講師をお願いしています。通常アリッサさんが最初に話題を提供し、あとは参加の皆さんがにぎやかにおしゃべりを楽しみます。

この日は新年最初のサロン、「Two truths and one lie」というゲームです。先ずアリッサさんから「海外からの 4 人の友達、東京にいる私を訪問しました。」「私は何度も友達と‘ドンキ’に行きました。」「私は山梨に行き有名なローソンの写真を撮り、警備の人に追い払われました。」と正月の過ごし方の紹介があります。実はこの中で 1 つうそがあるのです。みんなで Q&A を重ねながらそのうそを当てます。

この後は皆さんが順番に、初参り、福袋、お年玉、おせちなどを題材に、1 つのうそを混ぜてどう過ごしたかを紹介し、みんなでその中のうそを当てます。互いに真実とうそを明かさそうとする中から生まれる笑いが、皆さんの間を密接にします。あっという間の 90 分でした。(1 月 9 日 A クラス)

木曜日に A,B クラスの 2 回開催。事前登録制となっており、ご興味のある方は外国語講座事業部又はサポートセンターにお問い合わせください。(04-7128-6007)

※現在 A クラス(13:30～15:00)は人数が多くなったため受付を停止しています。



講師の
リン・アリッサさん



◇より暮らしやすいコミュニティを目指して

～ 外国語支援事業部 翻訳でサポート ～



外国語支援事業部は、外国出身の方が暮らしやすいよう、今年度も必要な情報の翻訳物を制作しました。

- 「マイナンバーカードはお持ちですか?」:どのようなものか、持っているとながができるか、健康保険証との一体化、取得の手続き、居住者カードと有効期限の関係などについて解説しています。
- 「日本の救急医療と救急車」:救急医療は誰でも受けられること、救急車の呼び方、ウェブを利用した診断と緊急医療の受け方、休日・深夜に開設の医療機関の紹介など、急を要する医療について説明しています。
- 「家族で楽しめる流山の年間イベント」:家族そろって楽しめる流山の年間イベントを、春夏秋冬の四季から 12 の行事を選び、紹介しています。利根運河の桜のライトアップや諏訪神社大祭・萬灯練行列、花火大会、大しめなわ行事、人形供養会、おびしゃ行事など、流山の楽しい行事を家族と一緒に楽しみいただけます。
- 「保健だより」:流山市が毎年春に発行している同名紙の中から、健康診断の内容、対象年齢、費用等「保健だより」:流山市が毎年春に発行している同名紙の中から、健康診断の内容、対象年齢、費用等の一覧表、受け方、祭日・夜間の緊急医療の案内、小児の電話での緊急医療相談の案内などを改訂しました。

以上を加えた NIFA のホームページには、多くの生活情報が掲載されています。そして新たに「やさしい日本語」版の掲載も始め、ベトナム語版を拡充し、インドネシア語の掲載にも着手しました。いずれも市内在住の方の出身国・地域の実情に対応したものです。皆様アクセスしてみてください。

◎理事会開催案内

- ◇ 日時:2025 年 4 月 12 日(土)
- ◇ 午前 10 時 00 分から
- ◇ 場所:市民活動推進センター 大会議室
- ◇ 議案:第 14 回通常総会開催及び付議事項決定の件
その他

◎第 14 回通常総会開催案内

- ◇ 日時:2025 年 4 月 26 日(土) 午前 10 時 00 分から
- ◇ 場所:中央公民館第 2 会議室
- ◇ 議案:2024 年度事業報告、決算報告の件
2025 年度事業計画、予算決定の件
役員改選の件
その他

※ 開催通知及び議案書は、4 月 14 日頃正会員の方にお送りします。
※ 総会終了後、同所で懇親会を開催します。皆様のご参加をお待ちいたします。



腕に自慢の料理を持ち寄り、歓談の花が咲きます

～ 中央公民館教室の「お楽しみ会」～



お料理の数々

12月11日は、日本語講座の教室が歓談の会場に模様替えです。普段は対面の学習、みんな同じ部屋にいてもお互いに言葉を交わすことはあまりありません。この日は教室が1つになり、年1回の交流を楽しみました。受講生の皆さんは、フィリピン、中国、スウェーデン、ラトビア、イエメン、インド、ベネズエラ、バングラデシュ、ベトナムと多様な国の出身です。

まずは持ち寄ったお国の料理を楽しむポトラックパーティー。テーブルには「軟骨付き豚肉」「シャンハイ春巻」「ファラッフェ」「ピチピチ」など、手書きのプレートが添えられた色鮮やかな料理が並びます。持ち寄った料理にみんな興味津々です。並んだ料理を見て、食べて作り方を聞いたり情報交換をしたりと、話に花が咲き

ました。お腹も心も満たされた後は、谷田講師のハーモニカ演奏にうっとり。そして、いよいよスピーチ発表会です。在住歴数カ月から20年以上まで、皆さん、それぞれの日本語力を駆使して、日頃の学習の成果を披露しました。来日当初の苦労話、日本食の感想、国旗や地図を示しながらの母国の紹介、日本各地を旅した思い出、講師への感謝、趣味の話では韓国ドラマにはまっていることまで、様々な話題を、心を込めて話す様子に引き入れられました。

プレゼントもゲームもあり、講師も含め約30名の皆さんが一つの輪になりました。



全員集合



スピーチ (ミゲールさん)



スピーチ (ザンナトゥルさん)



ジャンケンゲーム

外国の方との共生社会の橋渡し役が増えるよう

～ 「ボランティア日本語講師養成講座」開講 ～

江戸川台のサポートセンターには、外国の方から日本語を学びたいという問い合わせ、相談がかなり多くあります。

現在、中央公民館教室、江戸川台教室ではこうした要望にできるだけ応じる一方、講師の方も増やしたいと考え、このたび講座を開講しました。1年以上前からの念願です。

講師は吉田聖子さん。文部科学省の地域日本語教育アドバイザーとして、その地域に必要な日本語教室に関わる人材育成に東奔西走されています。携わって40年の方です。

14人の受講生は、決められた3つのグループに分かれ、講座は全て共同作業で進みます。ノート取りは禁止です。この日は開講日、テーマは「ボランティア日本語講師とは」といった内容。「これから学ぶのは、生活に必要な日本語、生活言語を教えるための講座」「ボランティア活動の理念は、‘社会性’、‘非営利’、‘自発性’、‘改革性・学び’」「名札には、相手



講師の 吉田聖子さん

の知っている文字が書かれていると親近感が生まれる。」「英語よりもやさしい日本語の話者の方が多い。」「自己紹介で、日本語を音に出す時のテンポ、笑顔、アイコンタクトで相手に安心感を与えることができ、学びにつながる。」「日本語ボランティアだからといって言葉だけでコミュニケーションをとる必要はない。」などを学びました。

講師の小気味よい進行、皆さんの熱心な参加で、笑いと会話の絶えない、短い2時間でした。

この日を含めて連続10回の講座、日本語ボランティア講師の誕生が楽しみです。(1月18日生涯学習センター)



編集後記

今年度も皆様には寄稿、取材でご協力いただき、多彩な記事をお届けできました。ありがとうございます。小谷良美(部長)、西山勝、李明勲、谷口宏美、山田まゆみが担当。広報部は新しい仲間をお待ちしています。